

農村RMO 関係府省施策の活用（東米良地区1000年協議会（宮崎県西都市））

— 地区の背景 —

1. 地域の課題

東米良地域では、「東米良地域づくり協議会（平成21年設立）」による地域づくりが行われていたが、設立から10年以上経過し、人口減少や生活環境の変化などが顕著となってきたことから、組織体制の見直しが求められていた。また、地区内の2つの集落協定では、高齢化や担い手不足により、第4期対策（平成27～令和元年度）以降の中山間直接支払の継続が難しい状況だった。



地区の風景

2. NPO法人「東米良創生会」の立ち上げ

令和元年、地域の社会福祉法人が中心となり、1年かけて、地域の課題を抽出。地域の事務局を担う機能が無い点に着目し、令和2年、「NPO法人東米良創生会」を立ち上げた。これにより、地域の事務局機能が強化。集落協定側と協議し、NPO法人が事務局を担う恰好で、中山間直接支払の継続と、新たに1地区を加えた集落協定広域化が実現した。



課題の抽出



草刈り活動への支援

3. 農村RMO「東米良地区1000年協議会」の立ち上げ

NPO法人設立と同時期に、「東米良地域づくり協議会」の組織体制を見直し。人員体制の合理化を図り、住民負担を軽減させるとともに、関係団体と連携を深める方針のもと、農用地保全等の実証に取り組むため、「東米良地区1000年協議会」（令和4年度）を立ち上げた。



農村RMO活動拠点
「東米良仁の里」

4. 今後の課題

- ・休耕地の活用及び労働力確保に向けた検討
- ・鳥獣害対策（特にシカ）の強化に向けた検討
- ・ユズやジビエといった特産品の流通、販売体制の検討
- ・高齢者に対する日常サービスの支援（高齢化率60％）

— 課題解決に向けた関係府省等の施策の活用 —

地域包括ケアシステム（厚労省）形成に向けた取組

【取組内容】

地域の関係組織が連携しながら、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の形成を目指す

【農村RMOとの連携】

- ・社会福祉法人（構成員）のノウハウを活かし、福祉と住民活動が一体となる取り組み
- ・地域の診療所とは、オンデマンドカーによる送迎で連携
- ・地元農産物を用いた配食サービスの実施



「高齢者支援」に対する課題

西都市互助による輸送導入事業費補助金（西都市）

宮崎ひなた生活圏づくり地域課題解決支援事業（宮崎県）

【取組内容】

- ・車両購入及び維持に係る補助

【農村RMOとの連携】

- ・オンデマンドカーとして送迎時に活用



「交通手段」に関する課題

関連施策は、農村RMO事務局の「NPO法人東米良創生会」が、主に西都市と相談しながら選択・活用している。

令和4年4月24日（2022年） 東米良地区1000年協議会設立

東米良地区の住民をはじめとして、関係する企業、団体、行政が一体となって東米良地区を1000年続く村とするために、本協議会を設立。農村型地域運営組織形成推進事業等を通じて、東米良地区の集落の再生、活性化および存続を図ることを目指す（規約より）



R4農村RMOモデル事業に申請・採択

（体制図）

東米良地区1000年協議会

協議（構成団体）	実行
・東米良地域づくり協議会	・利便性向上部会
・NPO法人東米良創生会	・労働力部会
・社会福祉法人善仁会本部	・特産品技術継承部会
・西都市猟友会	・鳥獣被害対策部会
・銀上集落協定	
・西都市 ほか	

「農用地保全」「地域資源活用」に関する課題

農村RMOモデル形成支援事業（農水省）

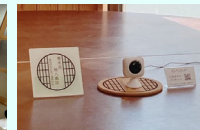
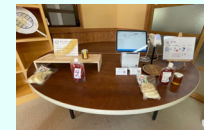
【取組内容】（農用地保全）

- ・ベテラン農林業者の技術継承に向けた取組
- ・農作業、農作物管理等に必要となる労働力について、関係機関内で融通し合える体制の検討



【取組内容】（地域資源活用）

- ・地場産品や生活用品を揃える無人販売所設置（タブレット端末、カメラ、マイク等）に向けた実証
- ・ジビエ活用としてのペットフード試作



「鳥獣被害」に関する課題

鳥獣被害防止総合対策交付金（農水省）

【取組内容】

- ・輸送用のコンテナ等を活用し、捕獲鳥獣の解体などが可能な機器を実装。
- ・実装後のコンテナ式処理加工施設を活用し、広域搬入体制の構築や既存加工施設との連携を検討。



※ CGイメージ